

エントリー名：栃木県栃木市立合戦場小学校 教務主任 越沼有子

活動名：合戦の場は「守り」から「攻め」へ  
 ～「つくる」校内研修で学校力を高める～

解決すべき課題：5年前、学力向上推進リーダーとして本校の勤務が始まった。その2年間で、**対話型授業リフレクション効果の普及**や、教職員の**多様性を融合する必要性**を強く感じた。3年前に教務主任となったことで、もっと組織的でクリティカルな対話の場をつくれなかと考え、形骸化していた校内研修の改善に目を付けた。そこでは新規構築（ビルド）ではなく、働き方改革を前提とした、今あるシステムをシンプルに繋ぎ変え（リンク）、**「受ける」から「つくる」校内研修を目指す**ことで学校教育活動全体をブラッシュアップさせられるのではないかと考えた。

目標・方針：**個性を生かした自律的・協働的な校内研修で「学校力」向上を目指す**

- 方針①ビジョン（目指す児童像）に即した、チーム（3指導部）のシンプル化を図る
- 方針②個々の企画力と運営力を向上させることで、研修の多様化と効果アップを図る
- 方針③サーバントリーダーシップの実践により、教職員のやりがいアップを図る

活動内容：

①ビジョンに即した、チームのシンプル化

- 「目指す児童像」を**教育課程グランドデザイン**として見える化し、教育計画と合理的にリンクさせる。
- 校務分掌（指導部）を3本柱に再構築**し、個々の役割を明確にする。
- 3指導部の目標実現に向け、**チームをシンプル化**し機動力を上げる。



②企画運営力の向上、研修の多様化と効果アップ

- 研修を「必修」と「実践」に分けた年間計画を作成し、**個人の持ち込み企画にも対応できる余白をつくる**ことで「ちょっと攻めてみよう！」という戦意を後押しする。
- リンクを意識した授業研究会を行い、**教師個々の得意戦法を生かした提案環境**をつくる。
- 伝統と斬新それぞれの良さを吟味し、**フレキシブルな研修方法と効果**を模索する。

③個別最適なサーバントリーダーシップの実践

- 「育成」「協働」「定期確認」「任せる」の4視点を設け、**研修者に応じた個別最適な関わり**をすることで、「一人の10歩」から「十人の1歩」そして「十人の10歩」へ繋げる。
- 研修の足跡を「カッセンバ Plant」として残し、**効果・成果**に見える化する。
- 「やりがい＝居場所×出番×評価」と捉え**、一人一人の意欲を高める。
- 目指す児童像との関連、研修の種類、企画・運営者の思いを**全体で共有しループ化**する。

取組の過程：

「土台作り」：教務主任1年目

対話の場づくりの第一歩として、新たに「気軽に話せる主任会」を立ち上げた。また、教育計画と校務分掌の整合性を見直し、**原則一人一役の「3指導部会」を再構築**するとともに「目指す児童像」の具現化に向け対話の機会を増やした。しかし、校内研修は学習指導主任主催のものが多く実施回数も少なかった。新企画を提案するにしても、単独で運営するしかなかった。

「ビジョン共有・モデリング」：教務主任2年目

主任会に続き「気軽に話せる部会長会議」を立ち上げ、各部主体で企画・運営する研修を開始。内容は豊富になったがレクチャー型が多い。そこで、対話型や探究型のモデリングを示す。さらに**「子どもの学びと教師の学びは相似形である」という視点**に立ち、若手・中堅と共に試行錯誤を繰り返す。徐々に参加者の意識が高まり、全体のスキルアップを感じるようになってきた。

「攻める」校内研修へ：教務主任3年目

「自律的・協働的な」校内研修が発動！

- ◎「特活コミュニケーション」（企画：特別活動主任）  
提案者の悩みについて話し合い、解決案を1ヶ月間実践し結果を報告。月1回自主研修会として実施。特活以外への広がりがみられた。
- ◎「大人のお話タイム」（企画：学習指導主任）  
児童の対話力向上のための「朝のお話タイム」を教職員同士でも実践したらコミュニケーションアップ。
- ◎「国語の授業 やってみたい！」（企画：2年目&7年目教員）  
放課後の雑談で、国語の授業実践の手応えと難しさを話していたことから生まれた企画。
- ◎「人権教育研修の宿題 助けてくださ～い」（企画：3年目教員&人権教育担当）  
ある課題のシェアが企画・運営に結び付き、多くの参加者で活発な話し合いが行われた。
- ◎「道徳の所見 みんなで一緒に書いてみよう」（企画：道徳教育担当）
- ◎「ビデオリフレクションで授業をみる目を育てよう」（企画：研究授業提供者）



⇒**研修の種類を整理**（レクチャー、ワークショップ、セミナー、ブラッシュアップ）さらに研修企画・運営のバリエーションの広がりが期待できる。  
 ⇒**既存の取組と関連した研修**（QUアンケートの活用）や、**児童の実態に即した研修**（不登校対応マニュアル）などに応用も可能になった。

「多様な対話の場」につながる工夫！

- ◎「ちょこっとお知らせ、研修掲示板」（企画：中堅教員）  
授業実践、板書、学級でのできごとなどをアップする掲示板。
- ◎「水5授業研究会」  
参観した授業の感想を付箋に書き、授業者に届ける。まとまったら「みんなの研修通信」として集約し全体で共有できる。

「カッセンバPlant」で共有データベース活用！

◎全ての校内研修履歴を教育課程グランドデザインと関連づけ保存。



活動の成果：

- ◎目指す児童像と研修との関係を明確にし、部会や担当に委ねたことで、**企画を提案する教職員が増え、テーマも多様になった**。また**相乗効果により研修の充実度も増**じてきている。

	R5	R6	R7
企画担当者	6人	8人	19人
研修の種類	7種類	17種類	24種類

- ◎研修の企画・運営には、明確な目的と資料・活動内容・展開などを考える必要がある。**このマネジメントは「授業づくりと相似形である」ということに気が付出した**。それが授業力に反映されるようになり、児童にも**友達の多様な考えを聞き再考する力**が身に付いてきた。

- ◎研修の目的が「指導力向上の場」や「知識の習得」だけでなく、**対話を通して「多様な見方・考え方に気付く場」「同僚性を高める場」へとバージョンアップ**している。

- ◎**学校力を組織と指導と児童の三位一体と捉えたとき**、それらに同時にアプローチできる策として**サーバントリーダーシップを発揮した「つくる」校内研修が効果的**であることを提案できた。

<教師の自由記述から>

・「積極的に意見や振り返りを発表し、主体的に参加できた」（2年目）・「研修会が増えて学ぶことが多くなり、たくさん刺激を受けています」（7年目）・「授業提案することで、よりよい授業づくりの一助となるよう努めた」（中堅）・「自分の考え方が変わった。児童を目標に引張り過ぎなくてよいことに気付いた」（10年目）・「自分の考えをしっかりと述べる先生が多く、刺激を受けた。いろいろな見方・考え方を聞くことができ、楽しかった」（ベテラン）

<3年児童の振り返り（国語）>

右：関心をもって友達の考えを聞き再考することで、自分の考えが深まることが分かる。  
 左：考えの多様性に気付くとともに、授業への参加意欲が高まっている。  
 ※授業者は、左の波線を書いた教員。教員の気づきが授業改善につながり、児童の学びが深まっている。

